2008 年 3 月 17 日

2008 春闘集中回答指定日を終えての談話

日本食品関連産業労働組合総連合会
事務局長　江森　孝至

1．３月 14 日、連合は 2008 春季生活闘争(以下「2008 春闘」という)の第一のヤマ場を終えて、賃上げの加重平均が 6,371 円であり、昨年と比べて同一組合で 259 円、0.07 ポイント上回っていることを公表した。そして、労働分配率の反転攻勢や内需拡大に対しては「十分なものとは言い難い」としながらも、厳しい経済環境の中での「各産別・組合で精一杯努力をしていただいた結果として評価したい」とコメントしている。

2．フード連合も参加し、２年目の取り組みとなった「有志共闘」は、３月 14 日に報告のあった８産別、44 組合の集計では、単純平均で昨年実績を 142 円上回る 1,182 円の「賃金改善」を獲得することができた。
　昨年を上回る 1,100 円台の水準を引き出したことは、各産別・組合が責任を自覚し、使命感を強く持って精一杯頑張った成果である。

3．フード連合の３月 14 日現在の要求状況は、平均賃上げ(加重平均)で昨年を上回る 7,221 円(2.6%)となっており、２年連続で 7,000 円を超える要求となったことは、2008 春闘を闘う各組合の決意が表明された結果である。
　また、原材料価格の高騰等の中で、フード連合本部としても、各組合の交渉を側面から支援するため、春闘のヤマ場に向けて、原材料価格の高騰を食品価格に適切に転嫁できるよう、流通関係の産別や流通業界団体に対して要請活動を行うとともに、個別企業に対しては、文書で「申し入れ」を行って、労働組合の主張に十分耳を傾け、評価に足る回答を求めてきた。

4．３月 14 日現在のフード連合の回答・妥結状況は、ベア・「賃金改善」を獲得した組合が 11 組合、単純平均で 991 円となっている。これは、昨年同時期と比べて額で 30 円上回っており、全体として昨年水準を上回る回答を引き出している状況にある。さらに、３組合が時間外割増率の引き上げを、時給の引き上げを中心としたパートの処遇改善の取り組みについては６組合が成果を獲得している。
　こうした結果は、昨年の交渉経過を踏まえてさらに交渉を前進させるとともに、経営側の結束に対して、「共闘」を重視しながら粘り強い交渉を積み上げてきた闘いの成果であり、先行グループ組合の精一杯の闘いに対して敬意を表するものである。

5．2008 春闘は、今週以降３月末に向けて第二のヤマ場を迎える。
　未解決組合や中小組合に対しては、これまでの回答・妥結状況を踏まえ、昨年実績を上回る水準を獲得した上で、さらに格差是正分や「賃金改善」などの上乗せ分を獲得するよう交渉体制の強化を要請するとともに、業種部会や大手組合に対しては、グループ組合や中小組合の賃金交渉に対して支援体制をとることを要請する。
　フード連合も、各組合の闘いを支援・強化するため、引き続き、的確な情報発信と相場の波及に努めていく。

―以　上―